

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【海老沼小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使いに関する事項」 算数「図形」数と計算 <指導上の課題> 個人差が大きい。類似の問題を学習したり、学習から時間が経ったりすると分らなくなる傾向が強い。	⇒ 朝の学習(あゆみタイム)の時間を利用して、現在の学習に関連のある単元の復習をドリルパークやスタディサプリ、問題集などを活用して行う。【週に1度】 授業の最初に前時の学習を振り返る時間を設定し、繰り返し練習する機会を与える【毎時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」 算数「図形」変化と関係「データ活用」 <指導上の課題> 問われていることの本質を捉えることが難しい。どの知識を活用すればよいかの判断ができない傾向が強い。	⇒ 重要な言葉に線を引いたり、文章を短く区切って読み取ったりするなど、問題文の読み方について繰り返し指導し、自力解決の時間にも活用するように指導する。【毎時間】 問題から読み取れることを図や表などに表すことで、問われていることを整理する力がつくように指導をする。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	調査結果
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、同音異字・同音異義語に課題が見られるため、漢字そのものの意味や使用する場面を意識して指導していくことを意識したい。算数では、図形の問題に課題が見られた。基本的な図形(三角形や四角形)の特徴や書き方について、繰り返し練習することで定着を図る必要がある。理科では、物理・化学分野に課題があり、事象が起こる原因や実験の意図などを理解させるための工夫が必要である。一方で、文章を読み取る力や基本的な計算力については改善が見られ、朝学習や朝読書、授業で行っている反復練習など、日頃の取組の成果が出たと思われる。繰り返し学習を継続しつつ、児童が苦手としている分野を重点的に復習できるような活動になるように改善していきたい。	
思考・判断・表現	国語では、話の前後関係を考慮して考えたり、問題の意図を捉えたりすることに課題がある。算数では、問題の場面を想起したり、グラフや数直線を読み取ったりすることに課題がある。基礎的な知識・技能は一定の習得が見られたため、今後はその力を様々な場面で発揮できるようにしていく必要がある。そのため、国語では短文や資料の読み取り問題を繰り返し行い、様々な問題形式になれる練習をしていきたい。また、算数では問題文やグラフから読み取れることを図や表にまとめたり、言葉にしたりする表現力を養ってきたい。今後は、学んだことを表現したり、テストで活かしたりする力もつけていくことが大切だと考える。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習や授業改善によって、国語や算数の基礎となる力がついてきたことが結果からも伺える。今後は、付けた力を表現する機会を増やし、様々な問題形式に慣れさせていくことが大切だと考える。そのため、ICT機器を効果的に活用しつつ、学習したことを表現する力をつけさせていきたい。
思考・判断・表現	B	問題文が長かったり、資料の情報が多かったりした場合、簡単にあきらめてしまう傾向がある。そのため、問題文や与えられた情報から、必要な部分を読み取る力をつける必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)